

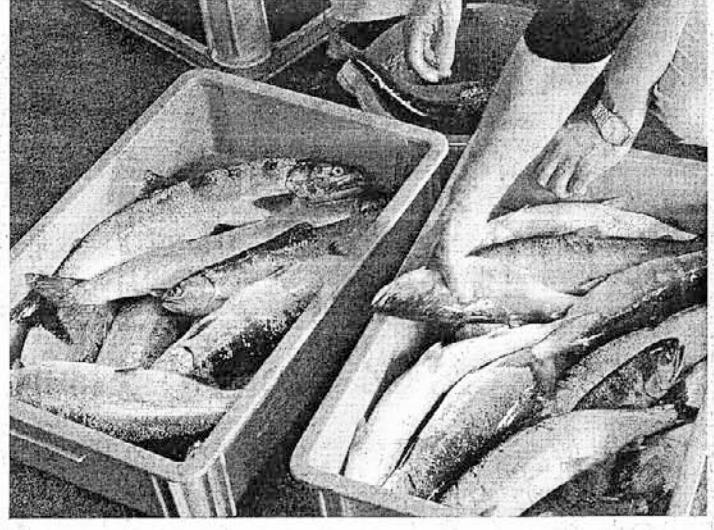
びわこの 考湖学

—第3部—

1

ビワマスの水揚げの光景。人々は今も琵琶湖の恩恵を受けて生活している。

テーマは「資源と生業」



れ、力を行使した結果、私たちは温暖化環境の変化など、地球規模で深刻な問題に直面してしまいました。この現状を立て直すことは決して容易

ます。ですが、行きすぎた自然の利用のありさまもあります。この連載では、それらを過去の暮らしの化石とするのではなく、現在、そして未来を生きるための「手本」として紹介したいと思います。読者の皆様、琵琶湖の文化から未来を見通す旅に出発しましょう。

私たち滋賀県文化財保護協会の職員がガイドをつとめます。(財団法人滋賀県文化財

見えてきた先人たちの暮らしみ。それは一言で言えば「自然と共に生きる生活」だと思います。もちろん、自然からの「恵み」もあった半面、自然からの「脅威」もあつたはずです。いずれにしても私たちの先人は、自然の一員として生活し、その命を継いできましたのです。

一方、自然の民の子孫である、現代の私たちの生活はどうでしょうか? 人間は、強大な力を持ち、これを自然に対して使い始めました。そして、財団法人滋賀県文化財保護協会は、長年、県内の埋蔵文化財の発掘調査をはじめとする文化財の調査を行い、この成果を県民の方々に広く紹介している団体です。発掘調査は、遺跡に残された先人たちの暮らしぶりを現代に蘇らせる仕事です。発掘調

平成20年1月からこの紙面をお借りして連載を始めました。「びわこの考湖学」も、第一部「琵琶湖をめぐる交通と経済力」、そして第二部「琵琶湖をめぐる信仰の世界」を完結し、この度、第三部の連載を開始する運びとなりました。紙面を提供いただいた産経新聞、そして読者の皆様方にあつく御礼申し上げます。

さて、第三部のテーマは「琵琶湖をめぐる資源と生業」とさせていただきました。私は、この度、第3部の連載と題して、読者の皆様方に、琵琶湖を中心とした資源と生業について、これまでの歴史と現在の状況、そして未来への展望について、さまざまな観点からお話しします。

この問題を解決するためのヒント、それは先人たちが「自然と共に生きる生活」の基で育んできた「文化」にあると思います。とりわけ、私たちが暮らす近江は、自然の資源に恵まれた国です。このおおもとに「琵琶湖」があることは言うまでもありません。琵琶湖を中心に産み出され

たさまざまな恵み、それは直

なことではありません。しかし、真摯に向き合わなければならぬ問題でもあります。この問題を解決するためには、これらさまざまな琵琶湖の恵みを、文化の視点から紹介して行きたいと思います。私たち文化財の調査員が見た先人の暮らしひとりは、賢い自然との接し方もありますが、行きすぎた自然の利用のありさまもあります。この連載では、それらを過去の暮らしの化石とするのではなく、現在、そして未来を生きるための「手本」として紹介したいと思います。読者の皆様、琵琶湖の文化から未来を見通す旅に出発しましょう。

保護協会 大沼芳幸

未来を生きるための「手本」